



卓 話

「中東の笛」

大崎電機工業(株)代表取締役会長

東京商工会議所副会頭 渡邊佳英氏

本日「中東の笛」という事でお話をさせていただきます前に、東商の副会頭および中小企業審議会の委員をさせていただいております関係で、少し景気の話をしたいと存じます。私はサラリーマン時代、野村総合研究所で企業調査等をしており、その当時は真面目な顔をして景気の話をしていましたが、それ以降は1回もした事ありませんので、ここで申し上げる事はあくまでも私の私見となります。



9月のリーマンショック以降、大変な金融の収縮があり、11月には実態経済の悪化がかなり進みました。12月の年末に多くの企業が倒産し、大きな山場であると言われていましたが、政府の政策等で乗り切ることができました。今年の3月にもやはり期末があり、一つの山であると言われていました。これには2つの理由があり、ひとつは企業の倒産が増えるということ、もう一つは株価が7000円を割り込んだら、上場企業会社の含み損が出てくると言われていましたが、これもどうにか越えることができました。

さて次の山はと申しますと、大体今日位から始まるものと思っています。決算発表というものは大体4月、5月で行われるもので、大きな上場企業会社は連休前にほとんど出しますが、これから決算のできない会社は何社出るのがポイントです。その中かなり大きな会社が含まれると景気の底割れの懸念が出てくると思っています。ただ大きな倒産がなければ、景気の底が見えてきて後は上昇するだけです。しかしその上がり方は極めてにぶいものとなり、来年あるいは再来年には回復するものの、この1、2年はきわめて低成長となるものと考えています。雇用調整助成金などで今まではワークシェアしていたところが、解雇や企業縮小していく傾向になっていくので、そうした面での雇用問題がクローズアップされていくのではないのでしょうか。

では「中東の笛」に話を移します。
私は2008年の1月から1ヶ月間いろいろなテレビに出る事になりました。記者会見は1時間位3回しか行っていな

かったのですが、全局入っていましたし、それが毎日細切れになって放映されるものですから、毎日会見を行っていたように見えたかもしれません。

この騒動のそもそもの発端は2007年の9月に愛知県豊田市で男子ハンドボールの北京オリンピック予選会が行われたことから始まります。それまでも10年くらい前から、どちらかというと審判がアラブ寄りの笛を吹くという事で、我々も懸念しておりました。国際ハンドボール連盟のほうからドイツの審判を招聘して予選会を行いました。重要な試合である韓国とクエート戦、日本とクエート戦ではアラブ側のボイコットによって笛を吹く事ができませんでした。そして韓国とクエートの試合はヨルダン、日本とクエートの試合はイランのレフリーによって行われました。結果は韓国とクエートが20対28でクエートが勝ち、日本とクエートは27対29でクエートが勝ちました。

そこで問題になったのが韓国とクエート戦です。これをNHKが全て撮影しており、それが韓国に放映されると、あまりにも一方的な笛という事で韓国の人たちは怒りだし、その夜韓国のクエート大使館では大きなデモ行進が行われたのです。日本とクエート戦は韓国ほどひどくはなかったのですが、玄人を見るとやはりクエートよりの判定でした。韓国に話を戻しますと、韓国の人たちは怒りが収まらず、NHKのビデオを韓国のテレビ局であるKBSが、韓国と日本のハンドボール協会と協力し、この疑惑の判定の試合をレフリーの解説・監修を含めてDVDを編集しました。この不可解な判定は合計37回あり、全てクエートに有利な判定でした。それも37回のうち30回が前半に集中しているのですが、これは国際ハンドボール連盟の監視委員が注意をしたために少なくなったのです。このDVDを国際ハンドボール連盟の加盟国168カ国、およびIOC（国際オリンピック委員会）の本部と委員に送りました。それにより大変な反響があり、IOCもその判定に疑問を持ち、申し入れがあったと聞いています。国際ハンドボール連盟の理事の方々も、ハンドボールがオリンピックから追放されるという危機感から、皆さん大変憂慮なされました。

そして12月18日に国際ハンドボール連盟の理事会がパリで開催された折、韓国ハンドボール協会は疑惑の判定を理事会に動議として載せるように要求しましたが、議題には含まれませんでした。しかしその理事会の中で、オリンピックの予選の報告の時に韓国、クエートの試合に対し異義のある判定があったという形でお茶を濁したような報告がありました。それと同時に審判長がビデオ

を見て、韓国ハンドボール協会の指摘があったように37回のミスジャッジをしているという報告があり、私は理事会に韓国とクエート戦の再試合の動議を提出しました。そこで大変な議論となったのです。

その頃、女子のオリンピック予選もカザフスタンで行われており、やはりひどい判定でしたが、その試合にはさらにトリックがありました。韓国と日本戦では日本が勝利、カザフスタンと日本では圧倒的にカザフスタンが勝利、韓国とカザフスタンは韓国が勝つという結果でした。カザフスタンに日本は大差で負けているので、得失点差でカザフスタンがオリンピックの出場権を得ることとなったのです。さらにビデオ等、全ての国が撮影できるはずなのに、カザフスタンの大会の時はビデオ撮影が禁止されたため、ミスジャッジの証拠が残りませんでした。

結局、議論の末、共に再試合ということで理事会決定がなされました。オリンピック予選の再試合は歴史上なく、大変不名誉なことでしたが仕方がなかったのです。その決定に対し、クエート側が大変反発し、CAS（スポーツ仲裁裁判所）に訴えました。それと同時に私は再試合の準備を始め、こうして12月19日から私の騒動が始まったのです。それ以降2月くらいまで記者会見や、インタビュー等マスコミに追いかける生活をしていました。AHF（アジアハンドボール連盟）がその理事会の決議は無効であると判断したのですが、再試合を強行しようということで、韓国と日本が1月の29日と30日に代々木オリンピックプールで再試合を行いました。それに対し、AHFは再試合をしたらアジアハンドボール連盟に対する名誉毀損に値するので、1000ドルの罰金の支払いを要求してきました。結果は日本の男子も女子も負けてしまいましたが、日本に勝った韓国の女子は強いのですから、オリンピックでは銅メダルを獲得しました。なぜそれほど強いチームにカザフスタンが勝つのか、誰もが思ったのです。

1月27日にAHFの理事会がクエートで開かれ、この試合強行の釈明のために、私はそこへ赴きました。どうしてそんな再試合をしたのか？だったら1000ドル支払え、支払わないという押し問答となり、私はシェーク・アーマドAHF会長に辞任を要求されましたが拒否して日本に帰ってきました。

最後にこの騒動がその後どうなったのか、1000ドルを支払ったのか等、お話しいたします。3月にCASからこれが玉石混合の判定が降りました。これは国際ハンドボール連盟の理事会の決定は無効である、ただし男子のアジア予選はあまりにもひどいため、アジア予選は無効であるというものでした。この判定を国際ハンドボール連盟の理事会としては、順序立てていない結論であると不満が残りました。

女子の場合は証拠不十分であったため、結局カザフスタンの予選会は有効になり、オリンピックにはカザフスタンが行く事になりました。日本と韓国は女子の場合負けたチームのオリンピック予選会がもう1回あり、韓国の女子はそれに勝って、北京オリンピックに出場し3位を獲得したのです。

シェーク・アーマドは私とは親子2代の付き合いになります。私の父はハンドボールの実業団を立ち上げ、国際ハンドボール連盟にも72年から加盟しました。その頃シェーク・アーマドの父である、シェーク・ファハドが国家的にハンドボールに力を入れていこうと活動をし、アラブのハンドボールの父といわれています。しかし彼が行ったことはとても政治的でした。当時二つの中国、つまり台湾を認めるか認めないかということで、多くの球技団体は台湾を認め、中国とは別々に入っていました。私の父もスポーツファミリーとして政治的なことで利用されたくないと思いましたが、台湾を認めない中国の意見を尊重するファハドの方に傾いていきました。そういう面でファハドはかなりスポーツ会で力を持っていたのです。さらにOCA（オリンピックアジア協議会）という団体を立ち上げ、彼は初代会長となりました。本来なら中国・韓国・日本などがアジアのスポーツ会を指導すべきところが、気がつくとならばアラブ側に主導権を取られてしまう形となったのです。そのファハドはイランのクエート侵攻の時、クエートの王族の中でただ一人戦死し、クエートでは英雄扱いされるようになりました。その影響により2代目のアーマドも人気があります。また、ハンドボールとOCAの指導者としての活躍があり、それと同時に彼はIOCの委員もしています。彼はこの騒動により、東京オリンピック招致の不支持を表明したため、東京オリンピックの招致のためにはいかに彼を落とすかがポイントとなってしまい、一番彼と関わりのある私が何度も会われました。

どうやったら彼を説得ということで、その一貫として名誉博士の授与をしたらいいのではという提案が持ち上がり、日体大で授与式が行われました。彼は専用機でやってきたのですが、そのとき日本ハンドボール協会副会長である多田氏、市原氏が1000ドルの罰金はこのような次第だから払わなくていいでしょう、と話したところ昔の話だからと軽く流されました。それと同時に私の罷免要求もAHFの総会があり、その時韓国の人立候補しましたが、一票をのぞいて私に信任投票がなされ、罷免もなくなりました。

とにかく全てが丸く収まったかどうかは別として、騒動は一段落したと言えるのではないのでしょうか。あとはいかにフェアプレイをハンドボールの為にやっていくかというのがこれからの課題であると思っています。